

「縁起がよい」 赤い実 —ヤブコウジ—

晩秋から冬にかけて、散策路の土手に小さな赤い実を見つけてます。ヤブコウジの実です。『万葉集』にも山橘（ヤマチバナ）の名で詠まれ、古くから日本人に愛されてきた植物です。サクランボ科の常緑小低木で、花言葉は「明日の幸福」です。同じ葉を少なくとも数年間つけ続け、赤い実は野鳥に食べられるまで落ちません。同じ葉と同じ実を長くつけ続け「長寿でめでたい」ことから、この花言葉なのでしょう。

お正月飾りには縁起がよいものとして、真冬に赤い実をつける「ナンテン」がよく用いられます。「ナンテン=難を転じる」といわれるからです。その他にも「千両、万両、有り通し」といって、金運に恵まれるよう縁起を担いでセンリョウ、マンリョウ、アリドオシも用いられます。真っ赤な実を沢山つける「センリョウ」、もっと多くの赤い実をつける「マンリョウ」、そして蟻をも突く鋭いトゲがあり赤い実を一個つけ、「一両」の名をもつ「アリドオシ」。ヤブコウジもアリドオシより少し多く赤い実をつけるので「十両」といわれ、正月飾りに使われます。「おめでたい」「縁起がよい」ヤブコウジを陶史の森で探してみてください。
※採取はしないでください。



ヤブコウジの赤い実



森の日記／10月1日(日)
キノコ教室
ウッディドームに集合して講師の先生から「キノコ」の基本的な知識や見分け方について教わりました。その後、各自で園内に採取に出かけ、採れたキノコについて「名前や「食べられるかどうか？」などを教えてもらいました。
時折雨が降る天気でしたが、たくさん種類のキノコが採れ、楽しい時間となりました。陶史の森にはアマタケ、ヌメリイグチ、ハツタケなど食べられるキノコが生えているそうです。

教室のご案内

バードウォッチング (自由参加)

12月17日(日) 午前9時～11時
初冬の野鳥を観察します。

1月28日(日) 午前9時～11時
冬の野鳥を観察します。

冬季は野鳥を観察する
ベストシーズン!

陶史の森ネイチャー
センター横、林泉の
池堤防に集合してく
ださい。

休園のご案内

12月29日(金)～令和6年
1月3日(水)は休園します。

陶史の森は自然環境保護地域です。動植物や石などは絶対に採らないでください。また、ペットの同伴はご遠慮ください。